

case 03 建具製作

ものづくりマイスター  
田中 利男さん / 秋山 光雄さん

派遣先団体  
神奈川県建具協同組合

ものづくりマイスターの派遣を依頼した理由

伝統に培われた組子細工の技能を  
若い世代に継承していきたい



基礎と応用の両面で役立つ技能の  
習得が職人の希少価値を高める

背景 伝統の技能と職人の生き方を学んでほしい

玄関扉や格子戸、和室の障子やふすま、窓やサッシ、折れ戸や収納の小扉など、古来より日本人は建具製作の技能とともに歩んできました。しかし、近年、日本の住環境が大きく変化。特に組子細工などの伝統的な技能は、若い人が学びたくてもその場を見つけることができないという状況があります。そこで、若い世代の組合員に技能を継承するため、ものづくりマイスター事業を活用した実技指導を「継承塾」と題して開催しています。「継承塾」では技能だけでなく、ものづくりマイスターから職人としての生き方やものづくりへの姿勢も学んでほしいと考えています。

効果 修了者が技能競技大会に出場

「継承塾」は全6回で計画しました。毎回、受講者たちの学びたいという熱気であふれています。受講者は、ものづくりマイスターの一手一投足に注目。高度な技能や普段見たことのない工具が示されると、会場のあちこちで歓声があがります。熱心な受講者が多く、実技指導を経て、その後各種競技大会などで入賞する人も出ています。最近では、2019年に神戸で開催された「技能グランプリ（建具職種）」で、過去に指導を受けた組合員が銅賞に輝きました。この講習を始める以前は、20年間組合員の中から技能グランプリの出場者がいなかったことを考えると素晴らしい成果です。



神奈川県建具協同組合  
教育情報室長  
うちだ かずお  
内田 和雄さん



プログラム内容

実施課題 組子製作  
目的 建具の伝統技能の習得  
受講対象 神奈川県建具協同組合員  
ものづくりマイスター 田中 利男、秋山 光雄

- 1回目 技能グランプリの課題製作
- 2回目 組子細工技法「三つ組手」の習得
- 3回目 紋様「八重麻の葉」の製作
- 4回目 トキン障子の製作
- 5回目 トキン障子の製作の仕上げ
- 6回目 花形組子「七宝」の製作



八重麻の葉

概要

建具製作の中でも、もっとも緻密な技が要求される技能の1つが「組子細工」です。釘を使わずに木の部材を組んで様々な紋様をつくる技能です。細くひき割った木に加工を施し、専用のカンナやノコギリ、ノミなどで調節しながら1本ずつ組み合わせるのですが、寸法が0.1ミリ違うだけでも組み付けが出来なくなることもあります。「継承塾」では、組子細工の技能を受講者が確実に理解し習得できるよう、ものづくりマイスターが基本から丁寧に指導します。

神奈川県建具協同組合

〒252-0815 神奈川県藤沢市石川6-18-38

設立年 昭和50(1975)年  
活動内容 建具の生産販売・資材・設備などの調査・研究・指導、技能継承  
組合員数 92人(2019年10月現在)



昭和50年の設立以来、組合員の福利厚生・教育や技能の向上と継承に力を入れると共に、行政への協力や市民への広報活動にも積極的に取り組んでいるほか、模範組合として全国中小企業団体中央会などから表彰を受けています。特に森林保全に関する環境問題への取り組みが評価され、平成18年度には「かながわ地球環境賞」を受賞しました。

INTERVIEW

ものづくりマスターと  
受講者が語る

## 名人技や独自の工具が 惜しげもなく披露される実技指導

### カンナくず1枚(0.1ミリ)の誤差を見抜く木材を見極める目を養う

組子細工には「菱」「麻」「亀甲」といった多彩な紋様があり、製作にはそれぞれ異なる技能が必要になります。「継承塾」では、組子細工のバリエーションを若手の職人に伝えるため、ものづくりマスターが1つひとつ手本を示しながら実技指導を行っています。

**田中** どのような技能もそうかもしれませんが、組子細工も「10年取り組んでようやく基礎が身につく」、それが私の実感です。組子細工は、特にカンナくず1枚分の誤差も許さない正確さが必要不可欠となりますが、地道に努力を続けることできっと誰もができるようになります。そうしたことを意識して指導しています。

**秋山** 組子細工には、木材を見極める目も大切です。適切で良い木材を選ぶことができなければ、決して美しい組子はできません。「木取り」はまさに「適材適所」。

「継承塾」では、そうした木取りの重要性についても教えています。

### マスターの「技を見る」と 独学で見つからなかった答えが

秋山、田中両マスターは、長年にわたる努力で身につけた名人技を受講者に惜しげもなく披露。田中マスターは、専用カンナなどの道具も自ら使いやすいようにカスタマイズしており、その使い方や作り方までもアドバイスしています。指導の様子を熱心に見つめるのは、受講者の一人徳長竜弘さんです。

**徳長** 私は大学に行き法学を学んだのですが、就職活動をするタイミングになって、どうしても手を動かす仕事に就きたいと思うようになりました。そこで思い切って、子どもの頃から憧れていたものづくりの世界に飛び込みました。卒業後は建具店で修行し、現在は独立。建具の仕事を中心に、注文家具製作や内装工事

も手がけています。建具の職人として、伝統的な日本家屋や寺社で使われている組子細工の技能も習得し、仕事の中に取り入れたいと考えるようになりました。

**秋山** 父は腕が良い建具職人でした。しかし、組子細工は手がけていなかったの、私はすべて独学で身につけました。当時は組子細工の仕事もあり、職人も多かったの、何とか学ぶことができました。しかし、現在は状況がかなり変わってきており、そうはいきません。ですから、徳長さんのように意欲的な若い人々には、「継承塾」のような場を活かして腕を磨いてほしいと思っています。

**徳長** 組子細工の技能を身につけることで仕事の幅も広がりますし、何よりもの



「カンナくず1枚の誤差も許さない」そんな正確さを追求して欲しいですね

独学で習得した組子の技能を若い人のために役立てたい

道具の使い方や作業手順など目から鱗が落ちるような学びがありました



ものづくりマスター  
(建具製作)  
たなかとしお  
**田中 利男さん**



ものづくりマスター  
(建具製作)  
あきやまみつお  
**秋山 光雄さん**



空工会徳長  
とくなが たつひろ  
**徳長 竜弘さん**

づくりとして面白いと感じています。でも独学では難しいと思っており、マスターから直接教えてもらえる「継承塾」はまたとない機会となりました。熟練の技能を目の前で見ることができ、これまで何十回と試行錯誤しても分からなかった答えが、一気に解決しました。マスターの方々には、とても丁寧に教えていただけるので、いつも本当に楽しみにしています。

### 技能の完成度を高めるのは やはり努力と鍛錬

徳長さんは、「組子を使った建具デザインを自分で提案する仕事もしていきたい」と抱負を語ります。組子細工という伝統技能を海外へ発信するために、自身の鍛錬にも終点はないようです。

**徳長** もっと鍛錬を重ねて組子細工の完成度を高めたいですし、紋様の種類もさらに身につけたいですね。独立後、親戚の家具製作の仕事を手伝うため、一時

期タイにいた経験があり、アジアでは日本の技能が注目され大変人気があることを肌で感じてきました。「継承塾」などの機会を通してさらに技能を向上させ、いつか組子細工を海外に紹介できれば嬉しいですね。

**田中** 若い人たちが熱心に組子細工を学び、切磋琢磨している姿を見るのは楽しいですね。私も若い受講者から多くのことを学んでいます。徳長さんが語る海外展開の話などは、私には思いもよませ

ん。そうした新しい発見や刺激があるので、ものづくりマスターの活動はやりがいがあり、大変面白いと感じています。  
**秋山** 受講者のみなさんは学ぶことへの意識が高く、向上心があり、教えていて手応えを感じます。これからの建具業界を担っていく若い方々には、技能習得への情熱を持ち続けて欲しいですね。そのために、私たちは「継承塾」などの活動を通して、皆さんの夢や希望の実現を手助けしていければと考えています。



### ものづくりマスター 田中 利男さん

平成29年度 厚生労働省「ものづくりマスター(建具製作職種)」認定

#### 指導内容

組子製作の基本知識、応用、デザイン及び技術的な指導。建具製作職種の技能検定におけるレベルに合わせた実技指導

「技能グランプリ」での優勝経験を持つ田中マスター。組子細工の実践の機会が少なくなる中で、「継承塾」は若手に貴重な技能を伝える絶好の機会だと語ります。



### ものづくりマスター 秋山 光雄さん

平成25年度 厚生労働省「ものづくりマスター(建具製作職種)」認定

#### 指導内容

技能検定(建具製作)(木製建具手加工)1級から2級レベルの実技指導。書院障子や欄間などの組子製作の基本知識、技能の指導

ものづくりマスターとしての活動をはじめ、地域の技能継承に尽力しています。今後もマスターとして「若い人の技能と気持ちを育てていきたいですね」と語ってくれました。